



宝泉地区

地域のお宝～ささえあい発表会～

令和7年12月12日(金)、宝泉行政センター多目的ホールにて「地域のお宝～ささえあい発表会～」を開催しました。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、人と人とのつながりや日常生活の中で何気なく行われているちょっととした支え合いが重要です。

そのようなつながりを「地域のお宝」と題し、住民の皆さんに広め、支え合いにあふれる地域づくりを進めるため「地域のお宝～ささえあい発表会～」を開催しました。



基調講話



発表会は全国コミュニティライフサポートセンター橋本泰典氏による生活支援体制整備事業についての講話から始まりました。

生活支援体制整備事業や地域のお宝についての説明がありました。

高齢になっても、介護サービスを利用するようになっても、安心して地域で暮らすためのヒントとなるような講話でした。

事例①つぎはぎクラブ

つぎはぎクラブの名前の由来は、手芸やおやつ作りなど、得意なことをメンバーに教え合うさまざまな活動をする様子がまるでつぎはぎのようであることから命名されました。メンバー同士の自然な見守り、見守られ、移動支援、趣味や生きがいなどの様々な意味を持つつぎはぎクラブの活動は、高齢期のお手本とも言えます。共通の趣味を楽しむほかにも、おしゃべりをするための場にもなっているつぎはぎクラブは、様々な情報交換の場にもなっています。



事例②宝町自治会

令和7年、誕生から50年を迎えた宝町は、これまで数多くの自治会行事を開催してきました。行事を楽しんできた若手の住民たちは、今では頼もしい地域行事の担い手となり、令和6年に「青年部」を結成。担い手不足などの地域でも共通の課題ですが、年齢や立場に関係なく、お互いの話を否定することなく聞き、その都度意見をすり合わせることで、多世代が地域づくりに関わる地区となりました。



チェックポイント

つぎはぎクラブは、共通の趣味である手芸やおやつ作りを通じて、メンバーの生きがい作りや交流を促進し、地域のつながりを深めています。趣味を通じて仲間たちと、楽しみながら自然と支え合い活動をしています。一方、宝町自治会は多世代が意見を尊重し合いながら地域づくりに取り組む、活気あふれる地区です。若い世代の集まりである青年部を地域づくりの仲間として対等な立場で接しています。どちらの事例も、これからの地域づくりのヒントとなる貴重なお話をしてくださいました。